Sagrada Familia －聖家族－

サグラダ ファミリア

２０２５年ご降誕特別号
（１２月２１日発行）
発行：カトリック水戸教会 広報部

クリスマスの喜び～主任司祭からのクリスマスメッセージ～

今年も、私たちの共同体や世界中の多くの人々が、依然として重い悩みを抱えています。病気、家庭の問題、経済的な不安、孤独に苦しむ人もいます。将来への不安に心を痛める人もいます。それでも、このような困難の中にあっても、私たちは小さな喜びの瞬間――暗闇の中で光る小さな灯――を見いだします。その小さな光は、神が私たちを見捨てておられないことを思い起こさせてくれます。道が険しいときであっても、神は私たちと共に歩んでくださいます。

クリスマスを祝うとき、私たちは、最も大いなる喜びが、貧しい馬小屋に生まれたひとりの幼子という、最も素朴で儚(はかな)いかたちでこの世に訪れたことを思い出します。イエスは富や権力ではなく、優しさをもって来られました。疲れた人には希望を、心乱れる人には平和を、そしてすべての人に喜びをもたらすためです。クリスマスの喜びは騒がしく一時的なものではなく、儚いものでもありません。それは、神が無条件に私たちを愛し、いつも近くにいてくださるという深い確信から生まれる喜びです。

今年のクリスマスがより特別なのは、私たちが2025年の聖年の終わりに近づいているからです。聖年は、信仰を新たにし、希望を強め、愛を深めるために教会が与えてくれた一年です。聖年は、神のいつくしみに心を大きく開き、傷つけられた相手をゆるし、貧しい人、忘れられた人、苦しんでいる人により優しく寄り添うよう私たちを招いています。この聖なる一年の締めくくりに向かう今こそ、感謝をもって振り返り、新たな勇気をもって未来へと進む大切な時です。

クリスマスの喜びが、聖年の最後の歩みへと導いてくれますように。そして、関係を築き直し、恵みを分かち合い、信仰をより深く生きる力を与えてくれますように。喜びは分かち合うときに大きくなり、人を支えるときに、より強固なものになります。

幼子イエスの光が、この小教区のすべての家庭に届きますように。ご家庭には一致を、病める人々には力を、孤独な人には慰めを、そして私たち皆に深く持続する喜びを与えてくださいますように。この聖なる季節が、どのような試練の中にあっても「神は私たちと共におられる――インマヌエル」であることを思い出させてくださいますように。

皆さんに、祝福に満ちた喜びのクリスマス、そして聖年の締めくくりにふさわしい希望と平和がありますように。

メリークリスマス2025、そして新年2026年の恵みが豊かにありますように。

ペトルス・アド・ベララウェ神父

Christmas Message of the Parish Priest

The Joy of Christmas

This year, many people in our community and around the world continue to carry heavy burdens. Some struggle with sickness, family problems, financial worries, or loneliness. Others face uncertainty about the future. Yet, even in the middle of these difficulties, we still find moments of joy—small lights that shine in the darkness.These moments remind us that God has not abandoned us. He walks with us, even when the road is hard.

As we celebrate Christmas, we remember that the greatest joy came into the world in the simplest and most fragile way: a Child born in a poor stable. Jesus came not with wealth or power, but with gentleness. He came to bring hope to the weary, peace to the troubled, and joy to all who welcome Him. The joy of Christmas is not loud or temporary. It is a deep joy that grows from knowing that God loves us without conditions and chooses to be close to us.

This Christmas is even more meaningful because we are approaching the end of the Jubilee Year 2025—a year the Church has given us to renew our faith, strengthen our hope, and deepen our charity. The Jubilee invites us to open our hearts wider to God's mercy, to forgive those who hurt us, and to care more tenderly for the poor, theforgotten, and the struggling. As we near the conclusion of this holy year, Christmas becomes a beautiful moment to look back with gratitude and look forward with renewed courage.

Let the joy of Christmas lead us into the final steps of the Jubilee. Let it inspire us to rebuild relationships, to share our blessings, and to live our faith more fully. Joy grows when it is shared, and it becomes stronger when we use it to lift others up.I pray that the light of the newborn Christ may enter every home in our parish. May He bless families with unity, the sick with strength, the lonely with comfort, and all of us with a deep and lasting joy. May this holy season help us see that even in our struggles, God is with us—Emmanuel.

A blessed and joyful Christmas to you all, and may the closing of the Jubilee Year fillour hearts with hope and peace. Marry Christmas 2025 and Happy New Year 2026!

【典礼部だより】「喜び」と「希望」～Gloria in excelsis Deo!～

（グロリア　イン　エクシェルシス　デオ）

『いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。』
（ルカ2・14）

夜通し羊の番をしていた羊飼いに、天使たちはこう言って救い主の誕生を告げました。

わたしたちも「栄光の賛歌（グロリア）」で「♪天には神に栄光 ♪地にはみ心にかなう人に平和」と歌いますね。その原型です。

実は、新共同訳の「ルカによる福音」を検索してみると、『いと高きところには栄光』ということばがもう1回だけ使われていることが分かります。

『イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかられたとき、弟子の群れはこぞって、
自分の見たあらゆる奇跡のことで
喜び、声高らかに神を賛美し始めた。
「主の名によって来られる方、王に、
祝福があるように。天には平和、
いと高きところには栄光。」』
（ルカ19・37-38）

枝の主日、イエス様のエルサレム入城での弟子たちのことばですが、救い主が来られたことへの喜び・賛美であるのは同じです。

考えてみると、わたしたちは待降節と四旬節を除いた毎週日曜日、「栄光の賛歌（グロリア）」でイエス様が来てくださったことへの喜び・賛美を歌っているのです。2,000年以上前の主の降誕から現代まで『いと高きところには栄光』という賛歌は続いています。

きっと、イエス様が再び来られる（再臨（さいりん））の時も、わたしたちは「天には神に栄光（いと高きところには栄光）」と歌うのでしょう。

ご降誕の次の日曜日、12月28日・聖家族の祝日には、浦和のカテドラルで聖年閉幕のミサが捧げられます。先の教皇様は、2025年の通常聖年公布の大勅書（だいちょくしょ）『希望は欺（あざむ）かない』の中で、「栄光」「再臨」についてこうおっしゃっています。

『わたしたちは、自分を救ってくれた希望のおかげで、過ぎ去る時を見て、人類の歴史と一人ひとりの人生は、行き止まりや暗黒の深淵に向かっているのではなく、栄光の主にお会いすることに向かって進んでいるという確信を得ています。ですから、主の再臨を待ち望みつつ、主において永遠に生きるという希望のうちに、日々を送りましょう。』　（『希望は欺かない』31ページ）

そして同勅書は、こう結ばれています。

『主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされますように。わたしたちの主イエス・キリストに賛美と栄光が、今も、世々に至るまで。』　（同43ページ）

主の降誕の喜びと、主の再臨への希望が、世にあまねくありますように。

典礼部／〇〇〇〇　監修：ルスニ神父・シスター今田

【インタビュー】墓地管理委員会委員長～祈りと憩いの公園墓地に～

今回は、墓地管理委員会の〇〇〇〇委員長に、委員会の活動内容、近年の整備、今後の展望についてうかがいました。　聞き手：広報部／〇〇〇〇

委員会は年間約10回の定例会を開き、墓地の環境整備と信者の皆さんからのご要望の受付を主な業務としています。夏と年末は休会としつつ、計画的な整備と利用者対応を継続する体制を維持しています。墓地のインフラ整備を軸に、現場の声を反映しながら段階的な改善を進める方針です。

墓地と納骨堂の使用権はいずれも〇〇円です。墓地区画は石材店と相談しながら決定し、外部事業者との連携も図っています。管理費は納骨の有無で異なり、納骨ありは〇〇円、なしは〇〇円で、春の「墓地ミサ」に合わせて案内と請求を行っています。こうした仕組みにより、費用の透明性と利用者の負担軽減に努めています。

これまでの主な整備として、来訪者の利便性を高めるための水洗トイレ新設が挙げられます。老朽化した旧施設の問題を解消し、大きな改善となりました。その他にも、水道の敷設や電源導入など基盤整備を進め、ミサに使用できる祭壇も設置。全体をレンガで統一することで、意匠上の一体感と荘厳さを高め、信仰の場としてのふさわしさを向上させてきました。

現在は、マリア像の設置事業が大きな課題となっています。全体の３分の２まで進んでいますが、残りは資金確保が鍵となります。

設置予定の聖母マリア像（左）と、その台座（下）

墓地には残り約〇区画、納骨堂も〇枠と残数が限られており、今後の需要増によっては「納骨堂３号棟」建設の可能性も視野に入れています。限られたスペースをどう活かすかが、今後の課題と言えます。

資金調達の新たな取り組みとして、マリア像設置場所のレンガに寄付者の名前と祈りの言葉を刻む案を検討しています。「大手門の瓦奉納」のような形を想定し、春の行事で実際の見本を提示して協力を募る予定です。

また、現時点で使用料や管理料の値上げ予定はないものの、材料費高騰の影響で将来的な改定の可能性があり、希望者には早めの権利取得をおすすめします。

〇〇委員長は、墓地を単なる埋葬の場ではなく、「祈りと憩いの公園墓地」として発展させる長期的なビジョンを示しています。荘厳さと親しみやすさを併せ持ち、墓参だけでなく地域コミュニティが心静かに過ごせる場にしていきたいと語っておられました。「お気軽に墓地に足をお運びください。」と呼びかけ、信徒の皆様の理解と協力を願っておられました。

2025年の通常聖年、水戸教会を振り返る

2024年５月９日：通常聖年公布の大勅書『希望は欺かない』
12月24日：サンピエトロ大聖堂の「聖なる扉」が開かれる
12月29日：さいたま教区司教座聖堂で聖年開幕のミサ
2025年１月12日：山野内司教司式の聖年のミサ
４月21日：復活の主日の翌日、教皇フランシスコが帰天される
４月23日：ベタニア修道女会から水戸教会に巡礼
４月29日：山野内司教、スペイン語グループと共に水戸教会に巡礼
５月７日：コンクラーベ開始。翌日第267代教皇レオ14世が選出される
５月11日：山野内司教司式の聖年のミサ／前教皇フランシスコ追悼ミサ
５月30日：栃木県から安鎮亨神父引率の巡礼団、太田教会からの巡礼団

６月18日：東松山教会からの巡礼団
６月21日：さいたま教区の若者の巡礼団
６月22日：キリストの聖体の祭日、初聖体５名
６月29日：聖ペトロ　聖パウロ使徒の祭日、
　　ドネガン神父叙階60周年記念ミサ
８月30日：加須教会からの巡礼団
９月６日：峰教会からの巡礼団
９月20日：伊勢崎教会からの巡礼団
10月11日：水戸教会から松が峰教会および太田教会へ聖年の巡礼
10月18日：メリノール会のシスターと
　　フィリピン女性グループの巡礼

10月25日：前橋教会・桐生教会・大間々教会からの巡礼団
11月３日：太田教会からの巡礼団
12月５日：上尾教会からの巡礼団
12月13日：北浦和教会からの巡礼団
12月28日：さいたま教区司教座聖堂で聖年閉幕のミサ
2026年１月６日：サンピエトロ大聖堂の「聖なる扉」が閉ざされる

【編集後記】

聖年であった今年を振り返ると、私たちの共同体が主の慈しみのうちに歩みを重ねてきた恵みを強く感じます。巡礼やゆるしの秘跡、祈りの集い、そして毎週のミサ――どの場面にも、神さまへ心を向けようとする姿がありました。皆さんの静かな奉仕と祈りが、教会を温かく支えてくださったことに心から感謝いたします。

世界の出来事に心痛む一年でもありましたが、だからこそ、平和を願い続けることの大切さをあらためて思い起こす聖年となりました。主の光に導かれ、私たちが日常の小さな場面で「希望を選ぶ者」となれるよう願っています。

新しい年も、神さまの恵みのうちに共に歩んでまいりましょう。

主の平和と祝福が皆さまの上に豊かにありますように。

ご意見・ご要望は水戸教会（広報部）メールアドレス
info@catholic-mito.com
までお寄せ下さい。よろしくお願いいたします。広報部／〇〇〇〇

サグラダ　ファミリア
Sagrada Familia －聖家族－
2025年ご降誕特別号（12月21日発行）
発行：カトリック水戸教会広報部
https://catholic-mito.com/
編集 〇〇〇〇